



思いやる気持ち

園長 野中 泉

新年最初の巻頭。何を書こうか、考えながらいたとき、Facebook でこんな言葉(詩)が流れてきました。

思いやる気持ち

相手の目で見たら	どのように見えるだろう	
相手の耳で聞いたら	どのように聞こえるだろう	
相手の心で感じたら	どのように感じるだろう	
いくら頑張っても	相手の気持ちにはなれないし	立場にもなれない
だけど相手を思いやる気持ちは	きっと相手に伝わる	

「相手の気持ちになって考えてみなさい」。先生や親にそう怒られたことはありませんか。私はあります。もしかしたら、自分の子どもたちにも同じようなことを怒りながら言ったかもしれません。でも、私はその言葉の意味をわかって使っていたらどうかとこの詩を読んで、ドキリとしました。

母である私は(たぶん他の大人たちも)、「相手の気持ちになって考えてみなさい」の後に「そうしたら、絶対わかるはず」の言葉をセットで子どもたちに言っていました。でも、この詩は、「いくら頑張っても 相手の気持ちになれないし 立場にもなれない」と言いきる。「なんだ、結局他人のことはわからないんかい」とずっこけそうになるし、しかも「相手を思いやる気持ちは きっと相手に伝わる」などと終わられたら、やっぱり「思いやり」なんて道徳的な言葉で終わらせるんだなと少しらけてしまいそうにもなります。

でも、幾度も繰り返し読んでみると、この作者が言いたいことは、そんな表面的なことではないのでは？と思えてきます。「相手を思いやる」ということは、相手の目で見たらどうだろう？相手の耳で聞いたら？相手の心で感じたら・・・と一生懸命、相手の立場を想像しながら誠実に考えてみることに。そして、その後で、ああ、それでも私は本当にはその人の全部はわからないと謙虚に思えること。そのふたつをあわせてはじめて、それを「人を思いやる」というのではないか、そして、そう思えたとき、その誠実さと謙虚さは、きっと相手にも伝わりますよと言っているのではないのでしょうか。少なくとも私はそう読みました。

年末に芸能人の転落事故というショッキングなニュースが入ってきました。彼女の両親もまた有名人であったため、位牌とお骨を抱えた両親にマスコミが群がりコメントを求めていましたが、その光景に芸人の有吉がラジオでこんなことを言っていました。「どんなお気持ちですか？って、“お前が自分の子どもを亡くしたのと同じ気持ちだバカヤロー”」。ずいぶん乱暴で皮肉たっぷりな言葉ですが、まさに、人を思いやるってどういうことかを端的に表している言葉だとも思えて、とても共感しました。

11月から12月にかけて、アトムでは、保育士同士でも、保育士と保護者も、保護者同士でも「伝わらない、わかりあえない」と決裂してしまうことが続きました。その時々当事者は「どうしたら、相手に自分の『思い』がわかってもらえるのか」言葉を尽くしたし、精一杯勇気をもって対立する相手とも向かっていき、歩み寄ったり、折り合いをつけながらいますが、正直なところは、年をまたいだ今もほんとうの意味での解決には至っていません。解決の糸口はどこにあるのか。そしてまた、人と人との間で起こる出来事の解決とは、そもそもどんなことか。深く問い直しながら、新年を迎えます。